

3 過電流継電器の整定値の考え方

- 突入電流 : ① 変圧器の突入電流は、定格電流の数10倍以上1～2〔Hz〕流入し、定格電流に安定するまで、2～3〔秒〕かかる。
: ② コンデンサにおいても同様の現象が発生します。
機器メーカー・容量（単三・3相kVA）等により、異なります。
- 整定値は、励磁突入電流の減衰カーブから考慮し、また、瞬時要素電流が大き過ぎないようにする。
- これらの事と系統の保護協調を十分考慮して、変流器の変流比選定と保護継電器のタップ調整をする。

3-1 過電流値の整定

: 設備容量の全負荷時の容量を想定し、その約150%辺でCT比に考慮して
制定する。

3-2 限時時間制定

: 上位（配電用変電所）のOCRと下位の保護機器（分岐用OCR、低圧MC
CB）の動作時間特性曲線がどちらも重ならない様な動作時間を選定する。
（動作時間特性曲線は各メーカーの示す曲線を重ね合わせる。）

3-4 瞬時時間制定

: 瞬時要素の目的は、主に短絡時のような過大電流の保護と考えるのが通常である。
一般に変圧器容量の定格電流の1000～1500%の電流を変流器1次側の
電流に換算し、その近似値で整定する。

3-5 判定基準（基準）

: 経済産業局指導書及び保護継電器メーカーの示す管理値による。